

～地域における日本語教育人材の育成に向けた情報提供～

③【日本語学習支援者の養成】

CINGA日本語学習支援者に対する
研修プログラム普及事業

特定非営利活動法人 国際活動市民中心(CINGA)
理事 萬浪 絵理

CINGA (シンガ) とは・・・

NPO法人国際活動市民中心 Citizen's Network for Global Activities

特徴：外国人の支援を行う専門家のネットワーク組織
支援者を支える中間支援・コーディネート組織

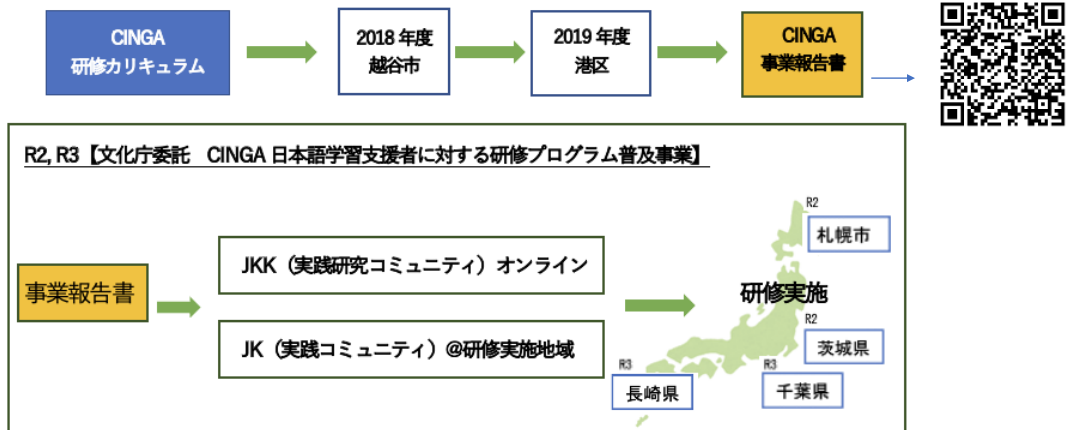
弁護士、行政書士、心の相談、労働相談、社会福祉士、社会保険労務士、通訳者、日本語教師、メディア関係者、協会職員などが専門性を活かして市民活動を行っています。2004年設立、会員数47名

- ・東京都外国人新型コロナ生活相談センター(TOCOS)協力実施(2020年度)
- ・東京出入国在留管理局主管 外国人総合相談支援センター／東京開業ワンストップセンター受託(2012～現在)
- ・外国人技能実習機構母国語相談センター受託(2018年度～現在)
- ・文化庁 日本語教育人材の研修カリキュラム開発事業【日本語学習支援者に対する研修】(2018、2019年度)
- ・無料多言語専門家相談事業(毎週2回の専門家相談会実施)自主事業
- ・少数言語通訳者の派遣コーディネート事業(2018、2019年東京都助成対象事業)
- ・文化庁 日本語教育人材の研修プログラム普及事業【日本語学習支援者に対する研修】(2020、2021年度)
- ・文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 プログラムC 基礎日本語教育実践研究(2021年度)

事業実施の背景

H30,R1 【文化庁委託 CINGA 日本語学習支援者に対する研修カリキュラム等開発事業】

『日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）改定版』に示された「日本語学習支援者に望まれる資質・能力」の向上を目標とする研修カリキュラムを作成し、埼玉県越谷市、東京都港区の二ヶ所にて研修を実施



日本語学習支援者研修実施実績・予定

研修実施地	R2 札幌市	R2 茨城県	R3 長崎県	R3 千葉県
協働先	札幌国際プラザ	茨城県国際交流協会	長崎県国際交流協会	千葉県国際交流センター
受講条件	例 外国人市民との地域活動や交流を希望する方、日本語学習支援のボランティア活動が可能な方、日本語学習支援の実践をしている方、等（実施地が設定）			
実施期間	11月8日～12月13日	1月17日～2月14日 1月31日～2月26日	1月17日～2月21日	10月31日～12月18日 1月16日～2月19日
回数	3時間×5回	3時間×5回×2か所	6回（計9.5時間）	3時間×5回×2か所
実施方法	オンライン	オンライン	オンライン	オンライン

研修内容例

日本語学習支援と文化理解を学ぶ講座
—多文化共生の地域づくりをめざして—

港区

日時	内容・講師
第1回 9/28 (土) 13:00-16:30	学習者の背景理解 講師：神吉宇一 日本社会における外国人や日本語教育の状況はどうなっているでしょうか。 データを元に、現状について概観します。 文化とは、多文化とは、多文化共生とは 講師：山西優二 人間はなぜ文化をつくり出すのでしょうか。ワークショップを交えつつ、 自分・他者と出会う中で、文化・多文化・多文化共生について考えます。
第2回 10/12 (土) 13:00-16:00	相互理解と学習支援のためのコミュニケーションの基礎 講師：西山陽子・萬浪絵理 日本語でのやりとりで慣れない外国人と相互理解を図るため、また、適切な学習支援を行うためには、コミュニケーションに工夫が要ります。話し手・聞き手としての基礎「やさしい日本語」と「聴く・待つ」方法を演習で学びます。
第3回 10/26 (土) 13:00-16:00	市民活動としての学習支援の方法とコミュニケーションのための日本語の特徴 講師：矢部まゆみ 日本語学習支援のために、地域ボランティアとしてできる活動はどのようなものでしょうか。役立つ素材には何があるでしょうか。相互理解を深める対話活動を体験しながら、日本語学習の支援をしていく方法を探りましょう。外国人の視点から見た日本語の特徴についても考えます。
第4回 11/9 (土) 13:00-16:00	相互理解を深めるための地域日本語教室の実践 講師：矢崎理恵 多様な人々が集まり、共に活動する「地域日本語教室」では、実際にどのような活動が行われているのでしょうか。「教室」はどのような課題を抱え、どのようにその課題を解決しようとしているのでしょうか。相互理解を目指した日本語教室をどう展開させていくか、実践事例を知り、参加者皆で活動を体験しながら考えてみましょう。
第5回 11/16 (土) 13:00-16:00	コミュニケーション・相互理解・日本語学習支援と「多文化共生の地域づくり」 講師：神吉宇一 コミュニケーションを通して相互理解を深めたり、日本語学習支援を行ったりするには、どのような取り組みをすればよいでしょうか。5回の研修のまとめとして、これまでの学びをふりかえり、これからどのように「多文化共生の地域づくり」に関わっていくことができるかを考えていきます。

2019年
東京都港区における研修内容

研修の目的・目標

参加者に3つの気づきをもたらすこと

- ・他者理解のために、個の文化、新たに作り出される文化など、文化のさまざまな側面への気づき
- ・言語調整能力を上げることの大切への気づき
- ・相手のことばを受容することの大切さへの気づき

多様な市民活動

日本語教室

日常生活

多文化共生の
市民社会形成

研修の目標

日本語学習支援者に望まれる資質・能力

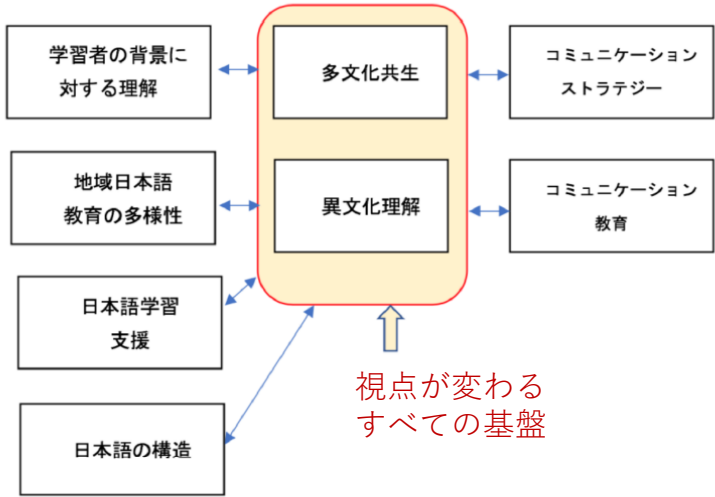
表 1 1

	知識	技能	態度
日本語学習支援者	(1) 日本語や日本文化、社会、多文化共生に対する一般的な知識・理解を持っている。 (2) 日本語教育に携わる機関・団体及び関係者による支援体制と自らに期待される役割について理解している。 (3) 学習者の来日の経緯、国や言語・文化背景、日本語の学習目的に対する一定の知識を持っている。 (4) 異文化理解や異文化間コミュニケーション、コミュニケーション能力に関する基礎的な知識を持っている。 (5) 日本語の構造や日本語学習支援に関する基本的な知識を持っている。	(1) 分かりやすく伝えるために、学習者に合わせて自身の日本語を調整することができる。 (2) 学習者の発話を促すために、耳を傾けるとともに自身の発話を調整することができる。 (3) 日本語教育コーディネーターや日本語教師と共に、日本語学習を支援することができる。 (4) 学習者の状況を観察し、日本語教師や日本語教育コーディネーターの助言を得ながら、学習方法や学習内容を学習者に合わせて工夫することができる。	(1) 学習者の背景や現状を理解しようとする。 (2) 学習者の言語や文化を尊重し、対等な立場で接しようとする。 (3) 学習者や支援者などと良好な対人関係を築こうとする。 (4) 学習者が自ら学ぶ力を育み、その学びに寄り添おうとする。 (5) 異なる考えや価値観を持つ他者と協働できる柔軟性を持つようとする。

(備考) 表 11「日本語学習支援者に望まれる資質・能力」は、表 1～10を前提とするものではない。

『日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）改定版』2019、文化審議会国語分科会 p.34

研修の目標

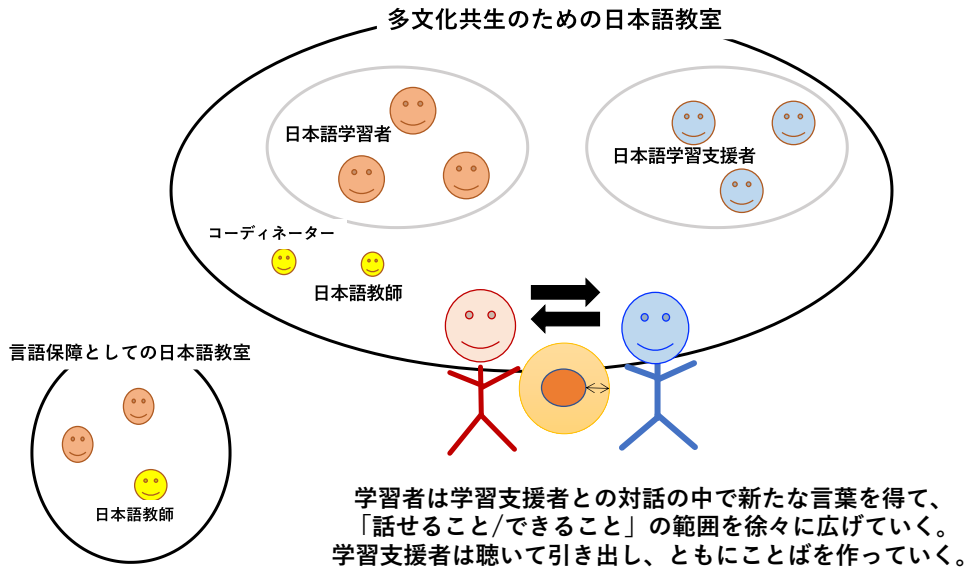


日本語学習支援者研修には、8つの教育内容を含めることになっている。

CINGAカリキュラムでは、8つの内容のうち、「多文化共生」と「文化理解」を研修全体の柱とし、その他の内容はすべてがこの2点の理解につながるよう設計されている。

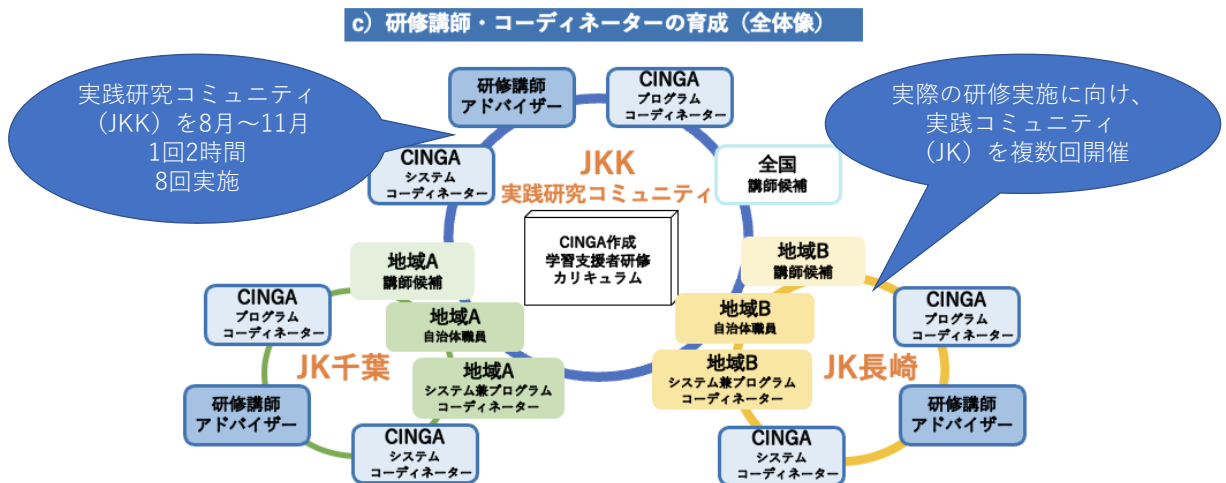
図 7 8つの教育内容の関係

研修の目標



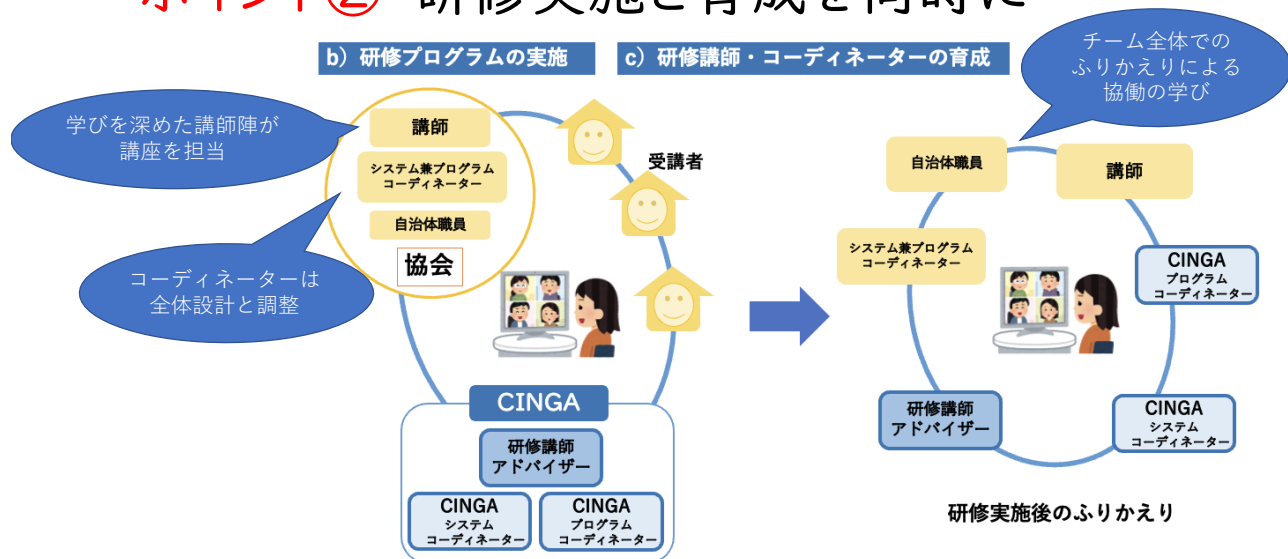
普及事業の概要

ポイント① 研修講師・コーディネーターの育成



普及事業の概要

ポイント② 研修実施と育成を同時に



成果

- 各地域の研修実施は、概ね、ねらいとする成果を上げることができた。
- 研修実施の取組を目的として各地域の講師、コーディネーターが研修内容やその目的とする地域づくりについて語り合うことで、次年度以降の取組につながる連携構築ができた。

課題

- 日本語学習支援者研修の成果は、受講者の出口である日本語教室等の活動の場の設置や活動の内容の検討なくして測れないことから、日本語教育体制整備を同時進行で進めていく重要性が改めて浮き彫りとなった。

特定非営利活動法人 国際活動市民中心 (CINGA)
info@cinga.or.jp 03-6261-6225